

編集後記

先日ある大学院生と話をしていたら、「ランダウの弾性論が本屋にない。在庫があるのは流体力学1だけ」と言っていました。

ここで、ランダウの.. というのはみなさんご存じの、ランダウ=リフシツ理論物理学教程をさします。このシリーズを読んで物理を勉強された方も多いかと思います。私も学部4回生の時に院試対策のため「力学」を買い、運動量、角運動量、エネルギーの保存則がそれぞれ空間の一様性、等方性、時間の一様性から導き出されるのを見てまるで神の視点を得たかのように感動したのをおぼえています。それからこのシリーズにはまり、流体力学1の訳者あとがきにある“theoretical minimum”を会得するのだ、と燃えていた時期もありました(結局いまだに読破はできてませんけど)。ランダウの自伝まで図書館で借りてきて読みました。

版元の東京図書に聞いたところ、「力学」と「場の古典論」はこれからも出版を続けるがそれ以外のものについては増刷する予定はない、とのことでした(絶版ではないそうです)。つまり本屋に在庫がなくなったら図書館で借りるか古本屋で探すかしかないことになります。

それぞれの時代で教科書にも栄枯盛衰があるのでしょう。今の学部生に聞くと「ランダウ、なんですかそれ」と言う人も多いです。ランダウのようなカタイ教科書をまるで修行僧が経典を読むかのように勉強する時代は終わったのかも知れません。また最近はもっといい別の教科書を使っている可能性もあります。検索エンジンにキーワードを入れれば大抵の事は出てくるこのご時世、膨大な知識を自分の脳みそに入れる必要はもはやないのかも知れません。しかしどうしても基礎学力の地盤沈下の象徴に思えてしかたがありません。でも一番残念なのは、“簡単ではあるがちょっと長い計算の後に..”といった、小ネタが若者に通用しなくなることでしょうか。

城野信一

編集委員

井田 茂 [編集長] 城野 信一 [編集幹事]

荒川 政彦 飯島 祐一 加藤 工 北島富美雄 倉本 圭 小林直樹 高木 靖彦 高田 淑子

田近 英一 出村 裕英 中村 智樹 中村 良介 平田 岳史 松島 弘一 米田成一 渡部 潤一

2001年9月25日発行

日本惑星科学会誌 遊・星・人 第10巻 第3号

定 価 一部 1,750円 (送料含む)

編集人 井田 茂 (日本惑星科学会編集専門委員会委員長)

〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学大学院理工学研究科
地球惑星科学専攻

印刷所 〒135-0011 東京都江東区扇橋3-5-10 星光社

発行所 〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC21

日本学会事務センター内 日本惑星科学会

TEL 03-5814-5801 FAX 03-5814-5820

本誌に掲載された寄稿等の著作権は日本惑星科学会が所有しています。

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を個人的な使用の目的以外で複写したい方は、著作権者から複写権等の行使の依託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい。

著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接日本惑星科学会へご連絡下さい。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会

TEL: 03-3475-5618, FAX: 03-3475-5619

E-mail: kammori@msh.biglobe.ne.jp

地球惑星科学関連学会連絡会ニュース

No.22

(2001年8月)

2001年合同大会を終えて

本大会は21世紀初、新体制運営機構主催初の開催となりました。

運営機構各局からの具体的な反省点などにつきましては、次回の連絡会ニュースにて掲載致しますが、先に概要のみご報告申し上げます。

(運営機構事務局)

1. 概要

会期：2001年6月4日(月)8日(金)

(6月3日(日)青少年セミナー)

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

●共催・

事前参加登録者数 1824名

(一般 1172名, 学生 652名)

当日参加登録者数 474名

(一般 379名, 学生 90名)

●論文投稿数 1829件

(速報セッション, 統合セッション含)

●セッション数 88件

(統合：1, レギュラー：45, スペシャル：42)

●会場数 27

●アルバイト延べ 200名

●団体展示 12団体 (13ブース)

東京大学海洋研究所,

国際電子工業株式会社,

株式会社近計システム,

東北大学地学専攻,

東京大学地球惑星科学専攻,

北海道地図株式会社,

地質調査総合センター,

白山工業株式会社,

核燃料サイクル開発機構,

海洋科学技術センター,

日本分光株式会社,

(株)地球科学総合研究所

●書籍・出版団展示 12団体

共立出版,

⑭渡辺教具製作所,

⑭愛智出版,

日本地質学会, ニュートリノ,

火山学会, 島津

インターナショナル,

海洋出版,

Cambridge Univ. Press,

Meteoritics & Planetary Science,

東大出版会,

古今書院

●会合 57会合

●青少年セミナー

「未来の地球, 未来の科学」(6/3)(日)参加者 102名

「惑星にはどのような風が吹いているのか?」

— 惑星の気象学 — 東大・理 松田佳久助教授

「地球と我々は, どうなるのか?」

— 地球と人間圏の未来 — 東大・新 松井孝典教授

「深海底を掘る」

— 未知の世界への挑戦 — 東大海洋研 平朝彦教授

●取材プレス来場数 22社

赤旗,
読売新聞,
読売新聞大阪,
テレビ朝日,
日本経済新聞,
講談社,
毎日新聞,
NHK,
東海大学新聞,
財)地震予知総合研究振興会,
共同通信,
富山テレビ,
TBS,
時事通信,
静岡新聞,
タイム・
インク,
宮崎放送,
NTV映像センター,
フジテレビ,
TBSライブ,
チューリップテレビ,
LOVELINK
(順不同)

2.会計報告

<収入>

合同大会連絡会より移算	5,000,000
学術情報センター資料提出 (2000年度分)	1,403,084
(事前)1824件(一般:1172, 学生:652)	14,859,000
(当日)474件(一般:384, 学生:90)	5,688,000

(オリンピックセンター宿泊代(含事務手数料)

	4,438,750
CD-ROM販売(12000×24+6000×4)	312,000
団体展示	2,538,780
出版展示	370,000
諸学会会場費(含会合食事代)	97,000
保育室利用料	58,750
諸収入(過入金, 口座立上金)	99,501
利息	1,865
<収入計>	39,570,230

<支出>

大会当日費用	12,309,968
オリンピックセンター会場使用料	3,169,000
ポスター・団体展示会場設営費	1,002,750
団体展示会場電気設備工事費	336,000
当日機材費用	727,650
宿泊施設使用料	3,598,600
朝食食券代	351,330
アルバイト代謝金	2,600,000
各学会会合食事代	90,000
講師謝金	60,000
保育室援助	134,638
展示ブース解約返金	240,000

JCOM関連	6,723,310
受付(人件費, 用具)	350,000
登録処理経費	1,791,000
運営管理費	1,840,000
ホームページ製作費用 (プログラム開発, WEB開発, システム運用管理)	3,200,000
国立情報学研究所データ処理費用	100,000
消費税	550,333
値引き	-1,108,023
印刷費・郵送費	5,393,690

プログラム印刷費 (650 × 2500)	1,625,000
CD-ROM 製作費 (650 × 2500 + 改訂 650 × 2300)	
	2,775,000
封筒印刷費 [請求書, プログラム発送用等]	
	192,000
郵便振込用紙 (28 × 1800)	50,400
ネームカード (65 × 2560)	172,250
運営マニュアル (200 × 10)	2,000
ポスター印刷費	126,000
請求書・プログラム・CD-ROM 郵送費	
	451,040
運営機構経費	6,381,446
事務局員給与	2,738,650
事務局員交通費	296,510
事務局員国民保険その他	216,500
他局交通費	18,860
通信費 (振込手数料, 電話代, 郵便代)	
	123,813
事務消耗品費	395,263
備品代 (事務処理用 PC, コピー機, FAX, その他)	
	2,374,735
その他雑費	217,115
繰越金額	8,761,816
<支出計>	39,570,230

2002年合同大会のお知らせ

1. 概要

●会期：2002年5月27日(月)-31日(金)

(5月26日(日) 青少年セミナー)

●会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

●費用：投稿料, 参加費, 宿泊費

基本的に2001年大会と同じ。見学学部生無料。

当日1日登録の設定等を検討中です。

●各種登録開始・締切日 (予定)

講演投稿

開始：2002年1月10日

締切：2002年2月28日午後5時

事前参加登録

開始：2002年1月10日

締切：2002年3月15日午後5時

青少年総合センターへの宿泊予約

開始：2002年1月10日

締切：2002年3月15日午後5時

2. プログラム局から

2002年大会プログラム委員長 岩森 光

2002年合同大会のプログラム委員長を仰せつかった岩森(東大地惑)です。2001年大会からの流れを継承しつつ、増えつつある参加学会・多様化するセッションに対応しながら、より良いプログラムおよび大会の実現を図りたいと思います。皆様の活発なご提案、ご議論をよろしくお願い申し上げます。なお、セッションの募集、プログラム編成の進行状況等につきましては、運営機構ホームページ (<http://www-jm.eps.s.u-tokyo.ac.jp/>) およびそこからリンクされる予定の2002年大会用サイトにおきまして随時お伝えいたします。それらもあわせてご覧頂きますようお願いいたします。

[1] プログラム委員会の構成と役割について

(1) プログラム委員会は、各学会選出の委員とプログラム局員(運営機構)で構成される。

(2) プログラム委員会は、提案されるセッションの採択を行う、

(3) プログラム委員会は、プログラムの編成を行うが、最終的な全体調整はプログラム局幹事会が中立的な立場から責任を持って行う。

プログラム局員は学会選出のプログラム委員を兼務可能ですが、全体調整に関わるプログラム局幹事会メンバーは中立的立場を保つために兼務できないことと致します。各学会選出委員のリストは<http://www-jm.eps.s.u-tokyo.ac.jp/renrakukai/2002pcom.html>を、プログラム局員のリストは<http://www-jm.eps.s.u-tokyo.ac.jp/>をご参照下さい。

また、プログラム局幹事会は、その年度と前年度・次年度のプログラム委員長に、分野バランスを考えて数名の委員を加え、今年度は、阿部豊(東大・理, 2001年プログラム委員長), 岩森光(東大・理, 2002年担当), 小野高幸(東北大・理), 原辰彦(建築研, 2003年担当予定)およびあと1名(未定)で構成する予定です。

検討事項については、おおむね、プログラム局(あるいはその幹事会)で案を立て、プログラム委員会全体で検討するというやり方を考えています。

プログラム委員会の基本的な役割は昨年度と変わりありませんが、今年度は[2]に述べられるように、セッション提案および採択の部分で若干の変更を検討しており、変更されればこれに伴い手順も変わります(例えば、セッションのこま数配分・日程配置は、これまではず希望こま数に基づいてなされていましたが、2002年では、投稿締め切り後に投稿数を考慮しながら行う)。また、セッション提案(募集)当初より、各提案セッションについてコンビナーを明確にし、個々のセッション編集はコンビナーが責任をもって当たる、という体制にしたいと考えています(昨年度は、セッション提案者とコンビナーが一致しないものもあり、編成時に支障をきたすことがあったため)。

[2] 2002年大会のセッション募集、編集について

2001年大会では、学会枠を超えた横断的セッションおよび各学会固有の活動を反映するセッションの両者を積極的に支援するために、3つのセッション形態(レ

ギュラー(R), スペシャル(S), ユニオン(U))を設けてプログラムを編成致しました。Rセッションの継続的性質を考慮して、2002年大会もこの形態を継承して行きたいと思いますが、2001年大会を踏まえて、以下のように内容や募集・編集方式の変更を検討しています。

Rセッション:

2001年大会では、各学会特有の研究分野発表の場として、5年間程度はセッション名を固定する定番セッションを各学会よりご提案頂きました。2002年より新規参加の学会には、レギュラーセッション希望(およびこれまで他の大会での実績)を尋ねる、あるいは少し合同大会への参加実績を重ねて頂きその上で図るなどして対応したいと思います。一方、学会枠を超える内容のセッションについては、レギュラー化の希望の有無を2001年に調査しました。2002年では、この希望調査および過去2-3年の合同大会での実績に基づき、適するものをレギュラーセッション化(定番化)したいと考えています。この場合、複数回の大会にわたり継続性を持たせた方が、セッション企画者・発表者・聴衆にとってメリットのあるものは、レギュラーセッションが都合が良い、という考え方にに基づきます。1口頭発表あたり質疑応答を含めて平均15分程度を想定しています。

Sセッション:

その時々に応じてタイムリーな問題を、学会枠にとらわれずに議論する場として、一般から公募します。2002年大会でも2001年と同様に行いたいと思います。1口頭発表あたり質疑応答を含めて平均15分程度を想定しています。

Uセッション:

2001年大会では、全学会に共通する話題として、運営機構提案の「21世紀の地球惑星科学」が唯一のUセッションとして行われました。2001年大会では、同セッション以外にも、多くの学会に共通の要素をテーマと

した魅力あるセッションが多数開かれていました。2002年大会では、運営機構提案のUセッションに加え、これらもUセッションとして、例えば1日1セッション程度、全て招待講演(他分野から講演者を招待することを想定して、参加料は無料?)、長い発表時間(1講演あたり30-60分)を設けて支援してはどうか、という意見が出されています。

以上のセッション区分、構成の基本方針あるいは詳細に関しては、プログラム委員会で議論・決定されていく予定です。その結果については、プログラム委員および冒頭でのべたホームページなどを通して皆様にお知らせいたします。また、以下に主なプログラム編成日程(確定)と簡単な内容(案)を記します。来年の大会に向けて、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

8月

Rセッションの採択基準を定めて、採択を行う(S公募開始前、9月上旬にはRを決定)。

Uセッションの採択基準を定めて、速やかに公募(電子メールにて)を始める。

また、仮にUとしての採択にもれた場合には、Sに提案し直せるように締め切りの日程を配慮する必要がある(10月20日頃締め切り?)。

9月

Rセッションの決定・一覧表をWEB上で公開

10月1日

Sセッション公募をWEB上で開始

10月20日頃?

Uセッション公募締め切り

10月31日

Sセッション公募締め切り

この時点では大きく不都合がない限り基本的に提案されたものを受け入れる。

類似のセッションがある場合には違いが明確となるように、セッション内容の説明を改めて行ってもらい、あるいはコンビナー同志でセッション合体などを話しあってもらうことはあると予想しています。

11月上旬

提案されたセッションの採択と全体的なバランスの検討

この時点では、具体的なこま数配分・日程配置はせず、投稿が終わった時点で(2月末締め切り)投稿数を考慮しながら行う。

11月15日 U, Sセッション決定

1月上旬 投稿募集開始

2月28日 投稿締め切り

3月前半 プログラム編成

3月18日 投稿者への通知

3月後半 プログラム最終調整

3月31日 全調整終了

5月27日-31日 合同大会

学会誌原稿作成の手引

1. 原稿の様式

はじめに委員長宛に投稿するときはプリントアウトした原稿2部, 最終稿では原稿2部(1部に字体, 図表の位置指定)とテキストファイルを提出すること。原稿は, 原則として, ワードプロにより作成されたものとする。また, テキストファイルはフロッピーまたは電子メールで送付のこと。テキストファイル以外の場合は事前に編集幹事に相談のこと。

2. タイトル

記事のタイトルは15字以内。また, タイトル, 筆者名及び所属を和文・英文両方で付す。

3. セクション

セクションは1., 2., ..., サブセクションは1.1, 1.2, ..., 細区分は(1), (2), ..., の記号を頭に於て, 左寄せ, 行末改行とする。また文中での区分けは(a), (b), (c)を用いる。これら記号はすべて半角文字を用いる。セクションタイトルは12文字以内で簡潔に, また, セクションタイトルとして“はじめに”, “おわりに”, “まとめ”は避ける。

4. 述語

専門用語はなるべく避けるか, 十分な説明をつける。特に, 対応する日本語がある場合, 英語・英略語は使わない。

5. 字体

数字, 英字は半角とする。また(,), [,], :, ;など区切り記号も半角を用いる。本文は立体(ローマン), 数式はイタリックで組む。本文中のイタリックは下線, 数式中の立体(ローマン)は2重下線, ゴチック(ボールド)は鼓下線で朱記指定する。

6. 単位

使用単位については特に統一しない。ただし, gcm^3 , cms^{-1} などはせず, g/cm^3 , cm/s とする。

7. 句読点

句読点は全角の“,”, “.”を用いる。

8. 図, 表, 画像

文中での図表の引用は“図1”, “表2”の形をとる。最終項送付に際して, 図表, 画像の刷り上がり時の大きさと位置を指定のこと。画像の投稿については, 1) 写真の場合: 印刷時実寸以上のサイズで鮮明なもの, 2) 画像ファイルの場合: 印刷時実寸で350dpi相当以上, 形式はtiffが望ましい。他の文献から図表を転載する場合には予め編集委員会に照会のこと。

9. 脚注

脚注は“1”などの記号をつける。

10. 文献の引用

引用文献は重要なものに限る。目安として10項目以内にする。本文中での引用は[1], [2]の形で通し番号をつけ, 論文の末尾に一括してリストを載せる。使用言語は原論文に従い。論文名は省略する。3人以上の著者はet al.または他と表記する。形式は以下に従う。

参考文献

- [1] Wakusei, T. and Kinsei, S., 1989: *Astrophys.* **220**, 293-330.
 [2] Wakusei, T. et al., 1999: *J. Geophys. Res.* **123**, 4567-4572.
 [3] 惑星太郎, 1992: *天文月報* **85**, 186-190.

11. 原稿の送付先

投稿時の原稿送付先は

152-8551 東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学大学院理工学研究科

地球惑星科学専攻 井田 茂

FAX: 03-5734-3538

E-mail: ida@geo.titech.ac.jp

最終稿の送付先は

464-8602 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院環境学研究科

地球環境科学専攻 (理学部E館気付)

城野信一

FAX: 052-789-3013

E-mail: sirono@eps.nagoya-u.ac.jp